

1 教育事業名 「イチ・ニ・サンゴ大作戦」  
 ～みつけようサンゴの秘密！うけつぎたいねサンゴ礁の贈り物！！～

2 ねらい

今日、海の環境について、学校教育やマスメディアを通しての啓発により、サンゴ礁の価値に対する認識は広まってきている。しかし、身近にあるサンゴに関する形態や生態等を科学的に学ぶ機会はほとんどない。

本事業では、実際に野外でサンゴ礁を観察し、サンゴの種類や分類や生態、サンゴ礁に生息する生物を調査する。また、サンゴの海と共に生きてきた島の人の話を聞いたり、サンゴ礁海岸の遺跡や史跡の見学を通し、太古の昔から受け継いできたサンゴ礁からの恵みについて学ぶ。

そして、そのまとめとして、とかしく湾のサンゴ礁マップの作成・発表を行い、より正確な現状認識をもつとともに、今後の海洋利用のあり方を考え、環境問題に継続的に関心を持ち、保全のために行動する児童生徒を育成する機会とする。

3 期 日 平成 26 年 11 月 1 日 (土) ～ 3 日 (月) 2泊 3日

4 場 所 国立沖縄青少年交流の家

5 募集定員 24名

6 参加人数 22名

7 参加者内訳 小学生 5・6年生 21名 中学生 1名  
 (男性 13名 女性 9名) (県内 22名 県外 0名)

- 8 講師
- ・ 今田求仁生 氏 (考古学研究者、海洋環境学研究者)  
 実習「サンゴ礁の贈り物を見つけよう」～岩礁生物観察、遺跡・史跡見学～  
 講義「人と自然の関わりから環境問題を考えよう」
  - ・ 森有紀子 氏 (スノーケリングインストラクター)  
 実習「とかしく湾の観察」「サンゴ礁ウォッチング」「サンゴ礁マップ作成・発表」
  - ・ 金城真里子 氏 (スノーケリングインストラクター)  
 実習「とかしく湾の観察」「サンゴ礁ウォッチング」「サンゴ礁マップ作成・発表」
  - ・ 比嘉康裕 氏 (スノーケリングインストラクター)  
 実習「とかしく湾の観察」「サンゴ礁ウォッチング」「サンゴ礁マップ作成・発表」
  - ・ 知念勝美 氏 (国立沖縄青少年交流の家 企画指導専門職)  
 講義「サンゴ礁のお話」 担当：知念勝美 氏 (国立沖縄青少年交流の家職員)

9 実施プログラム

		9:00	10:00	11:45	12:00	13:00	14:00	16:00	17:00	19:00	20:30	21:30				
1 1 日 (土)		どまりん 集合 受付	フェリー とかしき	移動	開 会 式	昼 食	オリ エン テー ション	仲 間 づ く り	<b>作戦1 ～海マスターになろう！</b>  <b>実習①</b> とかしく湾の観察 「スノーケリングの基礎と海中観察」			つ ど い ・ 夕 食	講 話 ① サン ゴ 礁 の お 話	入 浴	就 寝	
									移動							
1 2 日 (日)		つ ど い ・ 朝 食	準備	移動	<b>実習②</b> サンゴ礁ウォッチング 「慶良間海峽沿岸サンゴ礁生態系の観察」			シャワー 移動 昼食 (弁当)	<b>実習③</b> サンゴ礁の贈り物 「船越原遺跡見学・岩礁の生物観察」			根 元 家 石 垣 見 学	つ ど い ・ 夕 食	講 話 ② 人 と 自 然 の 関 わ り か ら 環 境 問 題 を 考 え よ う	入 浴	就 寝
									移動							

		9:00	10:30	11:30	12:00	13:00
13日(月)	つどい・朝食 清掃・準備	～サンゴ大作戦～		移動 フェリー	閉 会 式	解散
		実習④ サンゴ礁マップ作成・ 発表会				

\*3 日目は、荒天で船便の時間が繰り上がったため、午前中に実施予定の「とかしく湾のサンゴ礁調査」は中止とした。

## 10 事業の様子



「サンゴのお話」での実験



サンゴ礁の遺跡・史跡見学



サンゴ礁ウォッチング



「サンゴ礁マップ」発表会

## 11 エピソード (参加者・保護者の声や観察より)

- ・ とてもきれいで、サンゴの林に魚達がたくさんあそんでいて、とてもすごくて感動しました。
- ・ 海の大切さや、サンゴ・魚について少しくわしくなった。
- ・ サンゴは大切にしないといけないで、どんどんなくなっていることが分かった。
- ・ 前までは、サンゴのことを気にしていないけれど、今は好きになった。
- ・ サンゴは何気なくあるのかと思っていたけど、大事だと思った。

- ・化石など興味ないと思っていたけど、知らないことがいっぱいあって話を聞いていくうちにどんどんおもしろくなった。
- ・スノーケリングが上手になり、仲間と共にすごすことで仲間と近づけた。
- ・渡嘉敷島に住んでいるのに、知らないことが沢山あったからおどろいた。次は山にも行ってみたい。
- ・サンゴのことをたくさん知ることができた。
- ・友達との交流が深くなった。
- ・スノーケリングができるようになった。

## 12 担当者所見

### 【成果】

- ・「みつけようサンゴの秘密！うけつぎたいねサンゴ礁の贈り物！！」をテーマに、生物としてのサンゴの特徴にとどまらず、サンゴ礁と人との関わりについての学習に取り組んだ。その際、実験（比べてみよう「サンゴ骨格と川の石」）や実習（サンゴ礁ウォッチング）、フィールドワーク（遺跡・史跡見学）を行い、「本物」との直接の出会い、ふれあいを大切にするこゝで、参加者の学習がより効果的なものになった。
- ・台風19号の影響で延期があり、予備日程での実施となったが、沖縄美ら島財団総合研究センターのご協力で造礁サンゴの骨格標本30点を貸していただいたことで、それぞれのサンゴの特徴を骨格標本と観察した生きたサンゴとで見比べることができ、よりサンゴの理解が深まった。

### 【課題】

- ・台風シーズンに実施するため、荒天時プログラムや延期日程を含めた講師の調整が必要である。
- ・参加する児童生徒の参加動機は様々なので、事前に十分な趣旨説明と注意事項の確認を行う必要がある。
- ・参加者の安全管理のために、スタッフの人数確保が必要である。